



九州ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 南 留美

独立行政法人国立病院機構九州医療センター

AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究要旨

新規のHIV感染者数は九州全体としては減少傾向にあるが、2023年のAIDS発症者数は福岡県以外の県では増加しており、いきなりAIDS率も全国に比べ高い水準で経過している。保健所によるHIV検査数はコロナ禍後に回復してきたが元のレベルには戻っていない。一方、検査予約のオンライン化、検査の民間委託などの工夫を行っている県、自治体もある。

慢性期医療体制の構築および地域医療連携に関しては、各県とも中核病院および行政を中心に、診療ネットワーク会議、曝露事故対策、歯科診療ネットワーク構築、受け入れ施設への研修等に取り組んでいるが、様々な要因による受け入れ拒否の報告が今年度も見られた。

HIV診療の均てん化のために今年度も九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まってエイズ診療ネットワーク会議を行い、情報共有および地域ごとの課題について検討をおこなった。HIV/AIDSを取り巻く医療体制の問題は、地域社会全体の課題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。

A. 研究目的

新規のHIV感染者数は九州全体としては減少傾向にあるが、エイズ発症例は減少しておらず、HIV診療に携わる医療者の確保は重要な課題である。また長期療養及び高齢化に伴い合併症をもつ患者の割合が増加している。そのため一般専門医療機関や介護などの施設も含めたPLWHに対する慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性が一層強まっている。

本研究はこのような地方におけるエイズ医療の問題点の把握と地方におけるエイズ医療向上が目的である。

B. 研究方法

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

HIV感染症における最新情報や知見の共有のための基礎研修を拠点病院のHIV診療担当者を中心にオンラインで行った。基礎研修を修了した看護師対象に応用コースの研修を実地に2023年より開

始している。また歯科医師研修を実地に2023年より再開した。

ブロック内のHIV診療技術の向上および最新情報の共有のため、各拠点病院のHIV診療従事者および各県の行政担当者を対象に九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まり、エイズ診療ネットワーク会議を行った。

2. 地域医療連携

- (1) 地域連携のための研修：受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を行った。
- (2) 曝露事故時の予防薬に対する九州内各県の取り組みの進捗状況を確認した。
- (3) 病院・施設訪問：長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、県の医師会、看護協会、各施設の訪問および研修を行なった。福岡県内でPrEPを行っている施設を訪問し状況を確認

した。

- (4) 福岡県以外の県の拠点病院を訪問し、各々の施設における課題についての情報共有や必要に応じて臨床カンファレンスを行った。
- (5) 当院通院中の患者に対し、過去2年以内の他施設受診の有無、HIV告知状況、受け入れ状況について問診を行った。

3. 薬害被害者への対応

ブロック内の薬害被害者に対し九州医療センターで精密検査入院を行い、血友病性関節症やC型肝炎、生活習慣病などの評価を行った。また、リハビリ検診（個別、集団）を行い、関節、運動機能の評価および生活面での課題について検討した。九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター内の被害者救済（長期療養）支援チームを中心により良い医療連携、療養環境の整備のための活動（各地域への訪問や地域カンファレンスの開催等）を行った。

<倫理面への配慮>

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

C. 研究結果

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

今年度はハイブリッド形式を中心に以下の研修会・シンポジウムを開催した。

- (1) 第43回九州ブロックエイズ拠点病院研修会（ハイブリッド）

■ 日 時：2024年10月4日(金)14：00～16：00

■ 場 所：九州医療センター4階研修室

■ 出席者：講師1名参加者：133名

■ テーマ：みんなで支える HIV 診療～値域連携と合併症管理～/事例検討

- (2) 九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議（ハイブリッド）

■ 日 時：2024年10月4日(金)10月17日(木)10月21日(月)10月29日(火)10月30日(水)

■ 場 所：九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

■ 出席者：九州ブロック内中核拠点病院医師・看護師・CO・MSW・薬剤師・行政関係者80名

- (3) HIV ネットワーク第50回シンポジウム（ハイブリッド）

■ 日 時：2024年12月20日(金)18：00～19：30

■ 場 所：九州医療センター研修室

■ 出席者：講師2名参加者：48名

■ テーマ：HIV と STD

- (4) HIV/AIDS研修（オンデマンド/オンライン/対面）

● 看護師コース 6月28日（参加者9名）、10月18日（参加者4名）

● 薬剤師コース 6月24日（参加者9名）、10月18日（参加者5名）

● カウンセラーコース 7月5日（参加者6名）

● MSW コース 7月5日（参加者14名）

● 医師コース 6月21日（参加者4名）

● 歯科/歯科衛生士コース10月22日（参加者8名）

● 栄養士コース 6月28日（参加者3名）

- (5) 令和6年度九州HIV看護・ソーシャルワーク研修会研修会（ハイブリッド）予定

■ 日 時：2025年2月22日(土)9：30～12：10

■ 場 所：熊本大学病院くすのきテラス3階大会議室

■ 参加者：講師1名

■ テーマ：HIV 感染症の最新情報、事例検討

- (6) 第21回九州ブロックHIVカウンセラー連絡会議/令和6年度九州ブロックHIVカウンセリング研修会

■ 日 時：2025年2月28日(金)10：00～16：00

■ 場 所：九州医療センター4階研修室

■ 参加者：参加者：

2. 地域医療連携

- (1) 地域連携のための研修：

今年度は受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を10施設で行った。

福岡県 HIV/AIDS 出前研修（オンライン・対面）

■ 日 時：2024年6月5日(水)14：00～15：00(対面)

■ 依頼元：いちざきデイケアセンター

■ 出席者：講師1名、

■ 日 時：2024年6月24日(月)19：00～20：00(対面)

■ 依頼元：八女筑後医師会

■ 出席者：講師2名、参加者57名

■ 日 時：2024年7月30日(火)16：00～17：15(対面)

■ 依頼元：福岡県弁護士会LGBT委員会

■ 出席者：講師1名、参加者12名

■ 日 時：2024年8月2日(金)16：00～17：00(対面)

■ 依頼元：リーフケアプランニング

■ 出席者：講師2名、参加者12名

表1 各県予防薬配置状況

	予防薬配置の実施主体	予防薬配置場所	予防薬の提供元	曝露事故時の対応 マニュアル・フローの整備	曝露事故時の対応 マニュアル・フローの 情報公開
福岡県	県	拠点病院以外の病院：1	県	有	有
福岡市	市	市内保健福祉センター：7	市	有	無
北九州市	市	拠点病院：1	県	有（県作成）	有（県HP）
佐賀県	県	それ以外	県	無	無
長崎県	拠点病院	拠点病院	拠点病院	有（保健所のHIV検査時のマニュアルとして有り）	無
熊本県	県	拠点病院：1 拠点病院以外の病院：6	県	有	有
熊本市	県のみ	県が配置している。熊本市内は中核 拠点病院1カ所に配置していると認識 している	その他（県のみ）	無（熊本市保健所の内部用マニュアルとして は整備しているが、医療機関等向けの マニュアルは作成していない）	無
大分県	県	拠点病院：5 拠点病院以外の病院：17	拠点病院	有	有
宮崎県	県	拠点病院：3 拠点病院以外の病院：2	県	有	有
鹿児島県	県	拠点病院：6	県	無	無
沖縄県	県	拠点病院：3 拠点病院以外の病院：21	県（拠点病院・ 県立病院以外）	有	有

■ 日 時：2024年8月7日(月)10：00～11：00(オンライン)

■ 依頼元：特別養護老人ホーム花の季苑・ツクイ 筑紫野

■ 出席者：講師1名、参加者5名

■ 日 時：2024年9月25日(水)15：00～16：00
(対面)

■ 依頼元：八幡厚生病院

■ 出席者：講師2名、参加者34名

■ 日 時：2024年9月30日(月)18：00～19：00
(対面)

■ 依頼元：リバケアプランセンター小田部

■ 出席者：講師1名、参加者13名

■ 日 時：2024年10月23日(水)14：00～15：00
(対面)

■ 依頼元：中央区ケアマネ会

■ 出席者：講師1名、参加者34名

■ 日 時：2024年11月14日(金)14：00～15：00
(対面)

■ 依頼元：介護老人保健施設西寿

■ 出席者：講師2名、参加者11名

■ 日 時：2025年2月20日(木)19：30～21：40
(対面)

■ 依頼元：一般社団法人筑紫医師会

■ 出席者：講師2名、
(2) 曝露事後時の対応

昨年同様、各県の行政機関に曝露事故時の対応について直接確認した（表1）。長崎県、大分県以外は県主体で県内の病院に予防薬を配置し、佐賀県、鹿児島県以外はマニュアルを整備していた。いずれも昨年より行政の取り組みが進んでいた。福岡県は「HIV感染防止のための 予防内服マニュアル」を作成し県のHPに掲載した。九州各県において、離島における予防薬配置に関しては今後の検討課題である。

(3) 病院・施設訪問

九州医療センターとの地域連携協力病院2カ所、地域の医師会1カ所、県看護協会、STIクリニック2カ所を医師やMSWで訪問した。HIV診療の最新情報や県内の診療状況についての情報提供を行い、今後の連携を依頼した。訪問したSTIクリニックのうち1カ所はPrEP（処方および見守り）を行っていた。今までに20歳代～50歳代後半の約20名が利用していた。ツルバダ配合錠がPrEPに承認されたことに伴い、処方薬をツルバダの後発品からデシコビの後発品へ切り替える予定であると伺った。ま

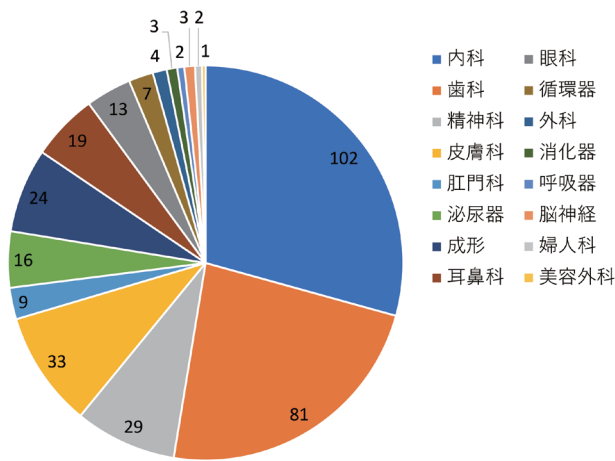


図1a HIV通知受診者231名の他施設受診科

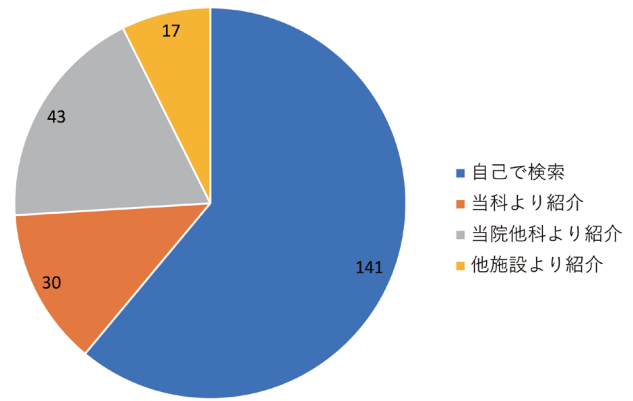


図1b HIV通知受診者231名の他施設受診経緯

た、DOXY PEPも行っており近年、CSWの利用者が増えているとのことであった。

(4) 拠点病院訪問

大分県内の拠点病院（大分大学、県立大分病院、別府医療センター）を訪問し、各施設の診療状況、課題について情報を共有した。AIDS発症者の長期療養を担う医療資源が少ないことが課題として挙げられた。

(5) 通院患者の他施設受診状況

2024年4月～10月に九州医療センターを受診したPLWH668名に問診を行い、618名にて回答を得た。618名中502例（81%）で他施設受診歴があり、うち271名（54%）がHIV感染を告知せず受診、231名（46%）がHIV感染を告知して受診していた。231名の受診した科の内訳は、内科102名、歯科81名、精神科29名、など多岐にわたっていた（図1a）。231名のうち141名が受診先を自分で検索、73名が九州医療センターからの紹介、17名は他施設からの紹介であった（図1b）。また、231名中11名（4.8%）で診療拒否もしくは不快な対応を受けた。一方、HIV感染を告知せずに受診した271名中138名が歯科を受診していた。歯科受診者219名のうちの63%に相当した。

3. 薬害被害者への対応

(1) 精密検査入院パス

九州ブロック内に居住する薬害被害者を対象に、短期間九州医療センターに入院して全身の精査を行う精密検査入院パスを行っている。2024年度の利用者は15名（他施設9名）であった。

(2) リハビリ対応

九州医療センターでは薬害被害者5名を対象に外

来にてリハビリを施行している。個別リハビリ検診は9名で施行。集団リハビリ検診は琉球大学病院にて行い、8名の薬害被害者が参加された。

D. 考察

九州ブロック内では人口10万人当たりの新規HIV感染者数およびAIDS発症者数が全国の上位に位置する県が多い。また新規感染者のウイルスの系統樹解析結果からは今後も新規患者が増えることが示唆されている。また、HIV感染症の予後改善とともに長期療養者が増加しており、HIV/AIDS診療を担う医療者の確保および医療・介護施設の拡充が課題となっている。

このような状況の中、HIV診療を行う自立支援医療機関の認定基準を満たさず、認定を見送られた施設がある。自立支援医療機関の拡充のためには、認定の基準の見直しが必要と考える。また、長期療養を担う医療施設との連携強化のため、施設の訪問を行ったが、PLWHの受け入れに対する考え方は施設間および職種間で様々であった。HIVに対する偏見と漠然とした不安が受け入れに対する障壁となっており、これらの思考は言葉でHIVに関する情報を説明しても容易には払拭できない。実地研修や実体験、経験者からの意見が不安や偏見を軽減するのに貢献すると考えられる。これらを踏まえ、今後研修のあり方も改訂していく必要がある。一方、当院通院中のPLWHに行った調査の結果、合併症や偶発症に対する通院に対してはHIV感染合併の告知下でも受け入れは概ね良好であった。歯科受診では、約6割のPLWHが未告知のまま受診をしていた。歯科に関しては、曝露事故対応の問題に加え、口腔内日和見感染症、日和見腫瘍の早期発見の

ためにもHIV告知することが望ましい。プライバシーの問題によりかかりつけ歯科医に告知しにくい場合は、福岡県歯科医師会ネットワークを利用して歯科の紹介が可能であり、今後検討していく必要がある。

なお、薬害被害者に関しては、止血管理が可能な施設に限られているため外科的処置が可能な施設も限定される。HIVのみではなく、血友病に関しても受け入れ施設拡充の施策が必要と考える。

地域によって程度は異なるが、曝露事故時の対応やマニュアル作成、長期療養支援についての課題共有など、拠点病院と行政との連携が少しずつ進みつつある。今後も、拠点病院と行政が協働し、PLWHが安心して療養できる地域包括ケアシステムの早期実現が望まれる。

E. 結論

HIV/AIDS患者の新規発生数の増加およびHIV陽性者の高齢化に伴う長期療養HIV陽性者の増加は、次世代を担うHIV診療従事者のみならず、地域社会全体の問題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。特に多くの合併症を抱えた薬害被害者に対しては個別に評価し個々に応じて対応していく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Takeo Kuwata, Yu Kaku, Shashwata Biswas, Kaho Matsumoto, Mikiko Shimizu, Yoko Kawanami, Ryuta Uraki, Kyo Okazaki, Rumi Minami, Yoji Nagasaki, Mami Nagashima, Isao Yoshida, Kenji Sadamasu, Kazuhisa Yoshimura, Mutsumi Ito, Maki Kiso, Seiya Yamayoshi, Masaki Imai, Terumasa Ikeda, Kei Sato, Mako Toyoda, Takamasa Ueno, Takako Inoue, Yasuhito Tanaka, Kanako Tarakado Kimura, Takao Hashiguchi, Yukihiko Sugita, Takeshi Noda, Hiroshi Morioka, Yoshihiro Kawaoka, Shuzo Matsushita, The Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium Induction of IGHV3-53 public antibodies with broadly neutralising activity against SARS-

CoV-2 including Omicron subvariants in a Delta breakthrough infection case. *eBioMedicine*. 2024 Dec ; 110 : 105439. Published online 2024 Nov 1. doi : 10.1016/j.ebiom.2024.10543

- 2) Michiko Koga, Akari Fukuda, Masanori Nojima, Aya Ishizaka, Toshihiro Itoh, Susumu Eguchi, Tomoyuki Endo, Akiko Kakinuma, Ei Kinai, Tomomi Goto, Shunji Takahashi, Hiroki Takeda, Takahiro Tanaka, Katsuji Teruya, Jugo Hanai, Teruhisa Fujii, Junko Fujitani, Takashi Hosaka, Eiji Mita, Rumi Minami, Hiroshi Moro, Yoshiyuki Yokomaku, Dai Watanabe, Tamayo Watanabe, Hiroshi Yotsuyanagi. Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human immunodeficiency virus after direct-acting antiviral era. *Glob Health Med*. 2024 Oct 31 ; 6 (5) : 316-323. Published online 2024 Oct 31. doi : 10.35772/ghm.2024.01036
- 3) Isaac Ngare, Toong Seng Tan, Mako Toyoda, Takeo Kuwata, Soichiro Takahama, Eriko Nakashima, Naoya Yamasaki, Chihiro Motozono, Teruhisa Fujii, Rumi Minami, Godfrey Barabona, Takamasa Ueno. Factors Associated with Neutralizing Antibody Responses following 2-Dose and 3rd Booster Monovalent COVID-19 Vaccination in Japanese People Living with HIV. *Viruses*. 2024 Apr ; 16 (4) : 555. Published online 2024 Apr 2. doi : 10.3390/v1604055
- 4) 椎野禎一郎、湯永博之、今橋真弓、渡邊大、南留美、蜂谷敦子、西澤雅子、林田庸総、吉田繁、豊嶋崇徳、伊藤俊広、古賀道子、貞升健、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村 麻子、仲村秀太、松下修三、吉村和久、杉浦互、菊地正、薬剤耐性HIV調査ネットワーク：国内 HIV-1 伝播クラスタの 2022 年の動向：薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報 Trends in HIV-1 transmission clusters in 2022 : Annual report of SPHNCS by the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. 日本エイズ学会誌 : 26 (3) , 2024

2. 学会発表

- 1) Surveillance of HIV-1 transmitted drug resistance in Japan, 2020-2022. Tadashi Kikuchi¹, Hiroyuki Gatanaga, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network, APACC 2024, 27-29 June, Taiwan
- 2) 血友病Aの周術期管理にエファネソクトコグアルファを用いた3症例, 中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南 留美、第86回日本血液学会学術集会、2024年10月11-13日、京都
- 3) HIV感染症の現状と感染対策、南 留美、第48回日本血液事業学会総会、2024年11月13日、福岡
- 4) HIV感染者に対するこれからのワクチン接種のあり方、南 留美、第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会、2024年11月14日、神戸
- 5) 血友病Aの周術期管理にエファネソクトコグアルファを用いた4症例、中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、合原嘉寿、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 6) 久山町スコアを用いたPeople Living with HIV (PLWH) の動脈硬化性心血管疾患リスクの検討、南 留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、小松真梨子、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 7) 当院におけるHIV感染症患者の健康診断受診の現状、長与由紀子、城崎真弓、犬丸真司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 8) ゲイバーおよびハッテン場へのHIV郵送検査キット設置における有効性と問題点、高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 9) 国内HIV-1伝播クラスター動向 (SPHNCS 分析) 年報 - 2023年、椎野禎一郎、今橋真弓、南 留美、中村麻子、林田庸総、吉村和久、菊地

正、杉浦 互、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京

- 10) HIV 陽性者を初めて受け入れた施設で対応苦慮された事例—患者さんを支える施設を拠点病院がどう支えるか、地域支援者と拠点病院の関係性を再確認する—、大里文誉、首藤美奈子、南 留美、長与由紀子、曾我真千恵、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 11) HIV陽性者の地域支援ネットワーク体制構築を目指した取り組み、首藤美奈子、田邊瑛美、大里文誉、南 留美、田村賢二、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 12) 長期療養支援について考える～新たな社会の構築を目指して～、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 13) 透析導入ゼロを目指して—PLWHの腎機能を考慮した個別化治療—、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし